

Dell™ PowerEdge™ 750 システム ユーザーズガイド

[システムの概要](#)

[Dell OpenManage Server Assistant CD の使い方](#)

[セットアップユーティリティの使い方](#)

[仕様](#)

[コンソールリダイレクションの使い方](#)

[用語集](#)

-
-  **メモ:** メモは、コンピュータを使いやすいするための重要な情報を説明しています。
 -  **注意:** 注意は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示し、その危険を回避するための方法を説明しています。
 -  **警告:** 警告は、物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。
-

ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。
©2003 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標について: Dell, DELLのロゴ, PowerEdge および Dell OpenManage は Dell Inc. の商標です。Intel Pentium および Celeron は Intel Corporation の登録商標です。MS-DOS, Microsoft および Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。Novell および NetWare は Novell, Inc.の登録商標です。Red Hat は Red Hat, Inc. の登録商標です。UNIX は The Open Group の登録商標です。

本書では、必要に応じて上記記載以外の商標および会社名が使用されている場合がありますが、これらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に所属するものではありません。

初版: 2003 年 9 月

仕様

Dell™ PowerEdge™ 750 システム ユーザーズガイド

プロセッサ	
プロセッサの種類	Intel® Pentium® 4 プロセッサ (最小内部動作周波数 2.8GHz) または Intel Celeron® プロセッサ (最小内部動作周波数 2.4GHz)
フロントサイドバス速度	800 MHz(Intel Pentium 4 プロセッサ)または 400MHz(Intel Celeron プロセッサ)
セカンドキャッシュ	最小 512 KB の内部キャッシュ(Intel Pentium 4 プロセッサ)または 128 KB の内部キャッシュ (Intel Celeron プロセッサ)

拡張バス	
バスの種類	PCI、PCI-X
拡張スロット	
PCI-X	3.3 V、64 ビット、66 MHz、フルハイト、ハーフレングス × 1
PCI	5 V、32 ビット、33 MHz、フルハイト、ハーフレングス × 1

メモリ	
アーキテクチャ	PC-3200 アンバッファード DDR400 SDRAM
メモリモジュールソケット	184 ピン × 4
メモリモジュール容量	256 MB、512 MB、または 1 GB
最小 RAM	256 MB
最大 RAM	4 GB

ドライブ	
ハードドライブ	
SATA	1 インチドライブ 2 台まで
SCSI	1 インチドライブ 2 台まで
ディスクドライブ	オプションの 3.5インチ、1.44 MB ドライブ × 1
CD ドライブ	オプションの IDE CD ドライブまたは CD-RW/DVD コンボドライブ × 1
USB フラッシュドライブ	ディスクドライブまたはハードドライブをエミュレートできるオプションのドライブ × 1

コネクタ	
外部装備	
背面	
ネットワークアダプタ	RJ-45(1 ギガビットの内蔵ネットワークアダプタ用)
PS/2 型キーボード	6 ピン ミニ DIN
PS/2 互換マウス	6 ピン ミニ DIN
シリアル	9 ピン

USB	4ピン × 2
ビデオ	15ピン VGA
正面	
ビデオ	15ピン
USB	4ピン
内部装備	
IDE チャンネル	40ピン
SATA チャンネル	7ピン × 2

ビデオ	
ビデオのタイプ	ATI Rage XL PCI ビデオコントローラ、VGA コネクタ
ビデオメモリ	8 MB

電源	
AC 電源装置	
ワット数	280 W
電圧	AC 100 ~ 240 V、50/60 Hz
最大流入電流	通常のラインコンディションのもと、システムの動作環境全範囲で、入電量は 10 ms 以下で 25 A に達することがあります。
システムバッテリー	3.0 V コイン型リチウムイオン電池 CR 2032

寸法	
高さ	4.2 cm
幅	44.6 cm
奥行	
オプションのベゼルを含む	57.6 cm
オプションのベゼルを含まない	54.6 cm
重量 (最大構成)	11.8 kg

環境	
温度	
動作時	10°C ~ 35°C
保管時	-40°C ~ 65°C
相対湿度	
動作時	1 時間当たり最大 10 % の湿度変化で 8 % ~ 85 % (結露しないこと)
保管時	5 % ~ 95 % (結露しないこと)
最大振動	
動作時	15 分間に 3 ~ 200 Hz で 0.25 G
保管時	15 分間に 3 ~ 200 Hz で 0.5 G
最大耐久衝撃	
動作時	z 軸の正方向に 2 ミリ秒以下で 41 G の 1 衝撃パルス (システムの各面に対して 1 パルス)
保管時	x、y、z 軸の正および負方向に 2 ミリ秒以下で 71 G の 6 連続衝撃パルス (システムの各面に対して 1 パルス)
高度	
動作時	-16 m ~ 3,048 m
保管時	-16 m ~ 10,600 m

[メモ、注意および警告](#)

コンソールリダイレクションの使い方

Dell™ PowerEdge™ 750 システム ユーザーズガイド

- [ハードウェア要件](#)
- [ソフトウェア要件](#)
- [ホストシステムの設定](#)
- [クライアントシステムの設定](#)
- [ホストシステムのリモート管理](#)
- [特殊キー機能の設定](#)

コンソールリダイレクションを使用すると、シリアルポートを介してキーボード入力とテキスト出力をリダイレクトすることによって、クライアント(リモート)システムからホスト(ローカル)システムを管理することができます。グラフィック出力はリダイレクトできません。BIOS または RAID 設定などの作業に、コンソールリダイレクションを使用することができます。

共有モデムを使って多くのホストシステムにアクセスすることが可能なポート集線装置に、クライアントシステムを接続することもできます。ポート集線装置にログインすると、コンソールリダイレクションを使ってホストシステムを管理するように設定できます。

この章では、最も基本的な接続について説明します。これはヌルモデムシリアルケーブルを使い、シリアルポートを介して 2 つのシステムを直接接続する方法です。

 **メモ:** オプションの RAC (リモートアクセスコントローラ) は異なるコンソールリダイレクションの規格を使用します。リモートアクセスカードを使ったコンソールリダイレクションの詳細については、リモートアクセスカードのマニュアルを参照してください。

ハードウェア要件

- 1 ホストシステム上で利用可能なシリアル (COM) ポート 1 つ
- 1 クライアントシステム上で利用可能なシリアル (COM) ポート 1 つ

このポートは、クライアントシステム上の他のポートとコンフリクトしてはいけません。

- 1 ホストシステムをクライアントシステムに接続するヌルモデムシリアルケーブル 1 本
-

ソフトウェア要件

- 1 ウィンドウサイズが 80 × 25 文字の VT100 / 220 または ANSI ターミナルエミュレーション
- 1 シリアル (COM) ポートを使用する 9600、19.2 K、57.6 K、または 115.2 Kbps
- 1 キーボードコマンドマクロを作成できること (推奨)

Microsoft® Windows® オペレーティングシステムのすべてのバージョンには、Hilgraeve HyperTerminal ターミナルエミュレーションソフトウェアが含まれています。同梱されているバージョンでは、コンソールリダイレクション時に必要な多くの機能が提供されていません。HyperTerminal PrivateEdition 6.1 以降にアップグレードするか、新しいターミナルエミュレーションソフトウェアを選んでください。

ホストシステムの設定

セットアップユーティリティを使って、ホスト(ローカル)システム上のコンソールリダイレクションを設定します(「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照)。
Console Redirection 画面を使って、コンソールリダイレクション機能を有効または無効にしたり、リモートターミナルの種類を選んだり、起動後にコンソールリダ

イレクシオンを有効または無効にすることができます。

クライアントシステムの設定

ホストシステムを設定した後、クライアント(リモート)システムのポートおよびターミナルの設定を行います。

 **メモ:** この例では、Hilgraeve HyperTerminal Private Edition 6.1 以降にアップグレードした場合を想定しています。その他のターミナルエミュレーションソフトウェアを使用する場合、そのソフトウェアのマニュアルを参照してください。

シリアルポートの設定

1. **スタート** ボタンをクリックし、**プログラム** → **アクセサリ** → **通信** とポイントして、**HyperTerminal** をクリックします。
2. 新しい接続用の名前を入力し、アイコンを選んでから、**OK** をクリックします。
3. **Connect to** (接続先) ドロップダウンメニューから使用可能な COM ポートを選び、**OK** をクリックします。

使用可能な COM ポートを選択すると、COM ポートのプロパティウィンドウが表示されます。

4. 以下のようにポートを設定します。
 - 1 Bits per second(ビット/秒)を設定します。

コンソールリダイレクションは、9600、19.2 K、57.6 K、または 115.2 K bps にのみ対応しています。

- 1 Data bits(データビット)を **8** に設定します。
 - 1 Parity(パリティ)を **None** (なし)に設定します。
 - 1 Stop bits(ストップビット)を **1** に設定します。
 - 1 Flow control(フロー制御)を **Hardware** (ハードウェア)に設定します。
5. **OK** をクリックします。

ターミナルの設定

1. HyperTerminal で **File**(ファイル)をクリックし、**Properties**(プロパティ)をクリックして、**Settings**(設定)タブをクリックします。
2. **Function, arrow, and Ctrl keys act as**(ファンクション キー、方向キー、Ctrl キーの使い方)フィールドが、**Terminal Keys**(ターミナルキー)に設定されていることを確認します。
3. **Backspace key sends**(BackSpace キーの送信方法)フィールドが、**Ctrl+H** に設定されていることを確認します。
4. **Emulation**(エミュレーション)設定を **Auto detect**(自動検出)から **ANSI** または **VT 100 / 220** に変更します。

この設定が、ホストシステムの **Console Redirection**(コンソールリダイレクション) オプション用に選んだ設定と同じことを確認します。

5. **Terminal Setup** (ターミナルの設定)をクリックします。

行数と列数の設定が表示されます。

6. 行数を **24** から **25** へ変更します。列数は **80** のままにしておきます。

これらの設定が表示されない場合は、ターミナルエミュレーションソフトウェアをアップグレードする必要があります。

7. **OK** を **2** 回クリックします。

ホストシステムのリモート管理

ホストシステムとクライアントシステムを設定すると(「[ホストシステムの設定](#)」および「[クライアントシステムの設定](#)」を参照)、コンソールリダイレクションを使ってホストシステムを再起動したり、ホストシステムの設定を変更することができます。

1. クライアントシステムを使ってホストシステムを再起動します。

手順については、「[特殊キー機能の設定](#)」を参照してください。

2. システムが起動を開始したら、コンソールリダイレクションを使って以下の作業を実行することができます。

1. セットアップユーティリティの起動
1. SCSI セットアップメニューの起動
1. ファームウェアと BIOS のアップデート(システムのフラッシュ)
1. ユーティリティパーティションでユーティリティの実行

 **メモ:** ホストシステムのユーティリティパーティションでユーティリティを実行するには、Dell OpenManage™ Server Assistant のバージョン 6.3.1 以降を使ってユーティリティパーティションを作成しておく必要があります。

特殊キー機能の設定

コンソールリダイレクションは ANSI または VT 100 / 220 ターミナルエミュレーションを使用します。これらは基本的な ASCII 文字に限られます。ファンクションキー、矢印キー、およびコントロールキーは、ASCII 文字のセットでは使用できません。そして、ほとんどのユーティリティでは、通常の操作でもファンクションキーおよびコントロールキーを必要とします。このためエスケープシーケンスと呼ばれる特殊なキーシーケンスを使用して、ファンクションキーまたはコントロールキーをエミュレートすることができます。

エスケープシーケンスは、エスケープ文字で開始します。この文字は、お使いのターミナルエミュレーションソフトウェアの要件に応じて、様々な方法で入力できます。たとえば、0x1b および <Esc> はどちらもエスケープ文字を示します。HyperTerminal では、**View(表示)**メニューから **Key Macros(キーマクロ)**を選んでマクロを作成できます。ほとんどすべてのキーの組み合わせに必要なキーのほとんどに、マクロを割り当てることができます。各ファンクションキーを示すマクロを作成します。

[表 B-1](#) に、特殊キーまたはファンクションを示すエスケープシーケンスの一覧を示します。

 **メモ:** HyperTerminal でマクロを作成する際、ダイアログボックスを終了するのではなく、エスケープシーケンスを送信していることを知らせるために、<Insert>を押してから <Esc>を押します。この機能がない場合、HyperTerminal をアップグレードする必要があります。

 **メモ:** [表 B-1](#) に一覧を示すエスケープシーケンスキーの組み合わせでは、大文字と小文字が区別されます。たとえば、<A> を生成するには、<Shift><a>を押す必要があります。

表 B-1 対応エスケープシーケンス

キー	対応するシーケンス	ターミナルエミュレーション
<上矢印>	<Esc><[><A>	VT 100 / 220, ANSI
<下矢印>	<Esc><[>	VT 100 / 220, ANSI
<右矢印>	<Esc><[><C>	VT 100 / 220, ANSI
<左矢印>	<Esc><[><D>	VT 100 / 220, ANSI
<F1>	<Esc><O><P>	VT 100 / 220, ANSI
<F2>	<Esc><O><Q>	VT 100 / 220, ANSI
<F3>	<Esc><O><R>	VT 100 / 220, ANSI
<F4>	<Esc><O><S>	VT 100 / 220, ANSI
<F5>	<Esc><O><T>	VT 100, ANSI

<F6>	<Esc><O><U>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><1><7><->	VT 100 / 220
<F7>	<Esc><O><V>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><1><8><->	VT 100 / 220
<F8>	<Esc><O><W>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><1><9><->	VT 100 / 220
<F9>	<Esc><O><X>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><0><->	VT 100 / 220
<F10>	<Esc><O><Y>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><1><->	VT 100 / 220
<F11>	<Esc><O><Z>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><3><->	VT 100 / 220
<F12>	<Esc><O><A>	VT 100, ANSI
	<Esc><[><2><4><->	VT 100 / 220
<Home>	<Esc><[><1><->	VT 220
	<Esc><h>	ANSI
<End>	<Esc><[><4><->	VT 220
	<Esc><k>	ANSI
<Insert>	<Esc><[><2><->	VT 220
	<Esc><Shift><+>	ANSI
<Delete>	<Esc><[><3><->	VT 220
	<Esc><->	ANSI
<Page Up>	<Esc><[><5><->	VT 220
	<Esc><Shift><?>	ANSI
<Page Down>	<Esc><[><6><->	VT 220
	<Esc></>	ANSI
<Shift><Tab>	<Esc><[><Z>	VT 100
	<Esc><[><0><Z>	VT 220
	<Esc><[><Shift><z>	ANSI

表 B-1 に一覧を示すキーのマクロを作成した後、ターミナルエミュレーション中にクライアントシステムのキーボードで <F1> を押して、エスケープシーケンス <Esc><O><P> をホストシステムに送信します。ホストシステムはこのシーケンスを <F1> として解釈します。

ホストシステムの特定のユーティリティまたは機能によっては、追加のエスケープシーケンスが必要な場合があります。表 B-2 に一覧を示す追加シーケンス用のマクロを作成してください。

メモ: 表 B-2 に一覧を示すエスケープシーケンスキーの組み合わせでは、大文字と小文字が区別されます。たとえば、<A> を生成するには、<Shift><a> を押す必要があります。

表 B-2 追加エスケープシーケンス

キー	対応するシーケンス
<Ctrl><Alt> (システムを再起動する)	<Esc><R><Esc><r><Esc><R>
<Alt><x>	<Esc><X><X>
<Ctrl><H>	<Esc><Ctrl><H>
<Ctrl><l>	<Esc><Ctrl><l>
<Ctrl><J>	<Esc><Ctrl><J>
<Ctrl><M>	<Esc><Ctrl><M>
<Ctrl><2>	<Esc><Ctrl><2>

メモ、注意および警告

システムの概要

Dell™ PowerEdge™ 750 システム ユーザーズガイド

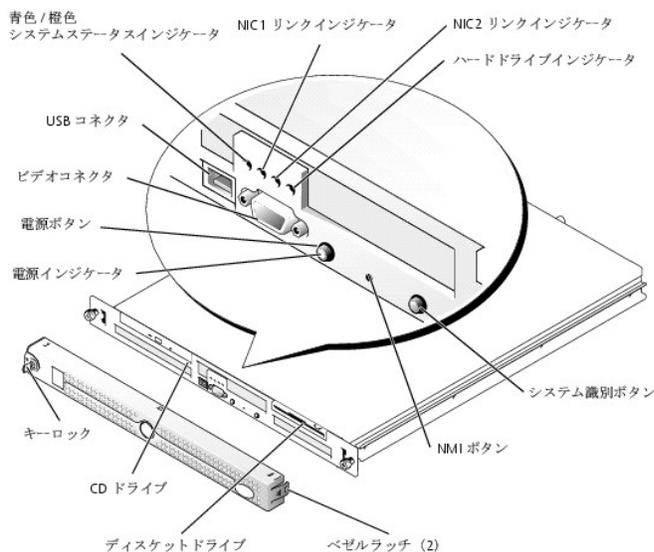
- [正面パネルの機能](#)
- [背面パネルのコンポーネント](#)
- [システムの機能](#)
- [サポートされているオペレーティングシステム](#)
- [電源保護装置](#)
- [その他のマニュアル](#)
- [テクニカルサポートの受け方](#)

この章では、主要なハードウェアとソフトウェアの機能（正面および背面パネルインジケータ）、外付けデバイスの接続方法、および電源保護装置の使い方について説明します。また、システムを取り付けたり操作したりするために必要なその他のマニュアルを一覧に示すとともに、テクニカルサポートの受け方についても説明します。

正面パネルの機能

[図 1-1](#) に、システムの正面パネルの機能およびインジケータを示します。ベゼルを取り外して正面パネルのスイッチおよびインジケータにアクセスする場合は、各ベゼルの両端にあるラッチを押します。[図 1-1](#)を参照してください。

図 1-1 正面パネルのコンポーネント



電源ボタンは、システムの電源装置への電源入力を制御します。

正面パネルと背面パネルの 2 つのシステム識別ボタンは、ラック内の特定のシステムの位置を確認するために使用されます。これらのボタンのうちの 1 つが押された場合、またはシステムを識別するためにシステム管理ソフトウェアをお使いの場合、システムの正面と背面にある青色のシステムステータスインジケータが点滅します。（点滅を止めるには、識別ボタンの 1 つをもう一度押すか、システム管理ソフトウェアを使用します。）

正面パネルには USB コネクタ、およびビデオコネクタも組み込まれています。[図 1-1](#) を参照してください。

表 1-1 では、システムの正面パネルインジケータについて説明します。

表 1-1 正面パネルの LED インジケータ

LED インジケータ	説明
青色 / 橙色のシステムステータスインジケータ	青色のシステムステータスインジケータは、通常のシステム動作中に点灯します。特定のシステムを識別するために、システム管理ソフトウェアを使ってこのインジケータを点滅させることもできます。 橙色のシステムステータスインジケータは、システムに問題があり、注意を必要としている場合に点滅します。
ハードドライブインジケータ	緑色のハードドライブ動作インジケータは、ハードドライブが使用されているときに点滅します。
NIC1 および NIC2 リンクインジケータ	内蔵ネットワークアダプタ用の 2 つのインジケータは、ネットワークアダプタがネットワークに接続すると点灯します。
電源インジケータ	電源ボタンの中心にある緑色のインジケータは、システムが AC 電源に接続され、システムの電源が入っていないときに点滅します。 システムの電源を入れると、緑色のインジケータが点灯します。 システムが AC 電源に接続されていない場合、緑色のインジケータは消灯しています。

外付けデバイスの接続

システムに外付けデバイスを接続する場合、次のガイドラインに従ってください。

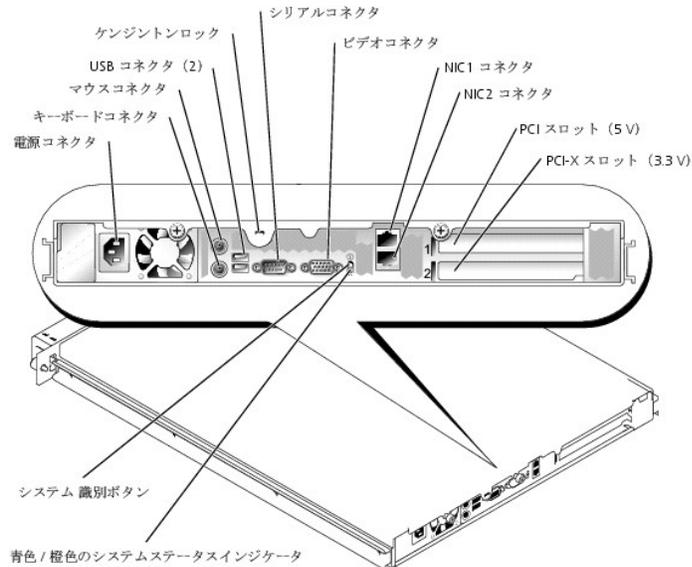
- ほとんどのデバイスは特定のコネクタに接続する必要があります。また、デバイスドライバをインストールしないとデバイスは正常に動作しません。(デバイスドライバは、通常オペレーティングシステムのソフトウェアまたはデバイス本体に付属しています。) デバイスに付属のマニュアルで、取り付けおよび設定の詳細を確認してください。
- 外付けデバイスを取り付けるときは、必ずシステムの電源を切ってください。次に、(デバイスのマニュアルに特別な指示がない限り)システムの電源を入れる前に外付けデバイスの電源を入れます。システムがデバイスを認識しない場合、デバイスの電源を入れる前にシステムの電源を入れてみます。

個々のコネクタについては、『インストール&トラブルシューティングガイド』の「I/O コネクタ」を参照してください。I/O ポートやコネクタを有効または無効にする方法と、設定方法については、「[セットアップユーティリティの使い方](#)」を参照してください。

背面パネルのコンポーネント

図 1-2 に、システムの背面パネルの機能を示します。

図 1-2 背面パネルのコンポーネント



システムの機能

- 1 1 U ラックへの設置が可能なシャーシ。
- 1 動作速度が最低 2.8 GHz 以上でフロントサイドバス速度が 800 MHz の Intel® Pentium® 4 プロセッサ、または動作速度が最低 2.4 GHz でフロントサイドバス速度が 400 MHz の Intel Celeron® プロセッサ。
- 1 最小 256 MB のメモリは、システム基板の 4 つのメモリモジュールソケットに PC-3200 DDR400 SDRAMメモリモジュールを取り付けることによって、最大 4 GB までアップグレード可能。
- 1 64 ビット、66 MHz、3.3 V の PCI-X 拡張スロットと 32 ビット、33 MHz、5 V の PCI 拡張スロットが各 1 つずつ。どちらのスロットもフルハイトとハーフレングスのカードをサポート。
- 1 単一の内蔵ドライブコントローラが SATA ハードドライブ 2 台と、オプションの IDE CD ドライブまたは CD-RW/DVD コンビドライブ 1 台をサポート。
- 1 オプションの SCSI ハードドライブ 2 台をサポートするオプションの SCSI RAID ソリューション。
- 1 オプションの SATA RAID ソリューション(利用可能時)。
- 1 リモートシステム管理用のオプションのリモートアクセスコントローラ。
- 1 オプションの 1.44 MB、3.5 インチ ディスケットドライブ。
- 1 ディスケットドライブまたはハードドライブをエミュレートするオプションの USB フラッシュドライブ。
- 1 280 W の電源装置 1 台。
- 1 10 Mbps、100 Mbps、および 1000 Mbps のデータ転送速度をサポートする内蔵 GigabitEthernet ネットワークアダプタ 2 つ。
- 1 システム冷却ファン 3 つと電源装置冷却ファン 2 つ。
- 1 コンソールリダイレクション対応のシリアルコネクタ。
- 1 シャーシイントルージョン検出とオプションベゼルのキーロックによるセキュリティ機能。
- 1 システムの重大な電圧および温度の変化を監視するシステム管理回路。システム管理回路は、システム管理ソフトウェアと連動して機能します。

それぞれの機能の詳細については、「仕様」を参照してください。

サポートされているオペレーティングシステム

ご使用のシステムでは、次のオペレーティングシステムをサポートしています。

- 1 Microsoft® Windows® 2000 Server
 - 1 Microsoft Windows Server 2003, Enterprise Edition および Web Edition
 - 1 Red Hat® Enterprise Linux ES(バージョン 3)および AS(バージョン 3) (利用可能時)
 - 1 Novell® NetWare® 5.1 および 6.5
-

電源保護装置

電圧変動、停電などの影響からシステムを保護するための装置には次のようなものがあります。

- 1 PDU — AC 電流の負荷が PDU の定格を超えるのを防ぐために回路ブレーカを使用します。
 - 1 サージプロテクタ — 雷雨中などに発生する可能性のある電圧スパイクが電源コンセントを介してシステムに侵入するのを防ぎます。サージプロテクタは、電圧が通常の AC ライン電圧レベルより 20 % 以上低下した際に起こる電圧低下に対しては保護できません。
 - 1 ラインコンディショナ — システムの AC 電源電圧をほぼ一定に保ち、短時間の電圧低下からシステムを保護しますが、完全な停電の場合は保護できません。
 - 1 UPS (無停電電源装置) — AC 電源が停電した場合に、電力供給をただちにバッテリーに切り替えてシステムを動作させ続けます。バッテリーは AC 電源が利用可能な間に充電されます。AC 電力が供給されなくなると、15 分から約 1 時間の限られた時間、バッテリーからシステムに電力が供給されます。バッテリーで 5 分間しか電力を供給できない UPS では、システムのシャットダウンしか行えません。どの UPS もサージプロテクタおよび PDU と一緒に使用してください。また、UPS が UL の安全基準に合格していることを確認してください。
-

その他のマニュアル

 『システム情報ガイド』では、安全および認可機関に関する情報を説明しています。保証に関する情報については、別の印刷冊子に記載されています。

- 1 システムをラックに取り付ける方法については、ラックに付属のラック取り付けガイドに説明があります。
- 1 Getting Started Guide(はじめにお読みください)には、最初にシステムをセットアップする場合の概要が説明されています。
- 1 『インストール&トラブルシューティングガイド』では、システムのトラブルシューティング方法、およびシステムコンポーネントの取り付けや交換方法について説明しています。
- 1 システム管理ソフトウェアのマニュアル。システム管理ソフトウェアの機能、動作要件、インストール、および基本的な操作について説明しています。
- 1 システムとは別に購入したコンポーネントのマニュアルでは、購入したオプション装置の取り付けや設定のための情報について説明しています。
- 1 システム、ソフトウェア、またはマニュアルの変更に際して記載されたアップデート情報がシステムに付属している場合があります。

 **メモ:** このアップデート情報には他の文書の内容を差し替える情報が含まれている場合があるので、必ず最初にお読みください。

- 1 リリースノートまたは readme ファイルには、システムまたはマニュアルの最新のアップデート情報や、専門知識をお持ちのユーザーや技術者のための高度な技術情報が含まれていることがあります。
-

テクニカルサポートの受け方

このガイドの手順が理解できない場合やシステムが思ったとおりに動作しない場合は、『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

Dell では、企業向けのトレーニングと資格認証を実施しています。詳細については、www.dell.com/training を参照してください。このサービスは、ご利用いただけない地域があります。

[メモ、注意および警告](#)

[メモ、注意および警告](#)

Dell OpenManage Server Assistant CD の使い方

Dell™ PowerEdge™ 750 システム ユーザーズガイド

- [Server Assistant CD の起動](#)
- [サーバーセットアッププログラムの使い方](#)
- [ドライバとユーティリティのアップデート](#)
- [ユーティリティパーティションの使い方](#)

『Dell OpenManage Server Assistant CD』には、お使いのシステムを設定するのに役立つユーティリティ、診断プログラム、ドライバが収録されています。オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合、この CD を使ってオペレーティングシステムのインストールを開始してください。システムのハードドライブ上の起動ユーティリティパーティションには、Server Assistant CD と同じ機能がいくつか含まれています。

Server Assistant CD の起動

システムを設定してオペレーティングシステムをインストールするには、Server Assistant CD を挿入して、システムの電源を入れるか再起動します。Dell OpenManage Server Assistant メイン画面が表示されます。

Server Assistant CD では、標準のウェブブラウザインターフェイスを使用します。したがって各種アイコンやテキストのリンクをマウスでクリックして、CD を操作することができます。

Server Assistant を終了するには、Exit (終了) アイコンをクリックします。サーバーセットアッププログラム実行中に Server Assistant を終了すると、システムは標準のオペレーティングシステム起動パーティションから再起動します。

CD が起動しない場合、セットアップユーティリティの Boot Sequence オプションで、CD ドライブが最初に起動するように指定されているか確認します ([「セットアップユーティリティの使い方」](#)を参照)。

サーバーセットアッププログラムの使い方

オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合、または後日オペレーティングシステムをインストールする場合、Server Assistant CD のサーバーセットアッププログラムを使って、システムを設定したりオペレーティングシステムをインストールします。

 **メモ:** オペレーティングシステムがプリインストールされていない場合にのみ、Server Assistant CD を使用してください。オペレーティングシステムのインストール手順を説明したマニュアルを探し、その手順に従ってインストールを完了します。

サーバーセットアッププログラムを使って次のようなタスクが実行できます。

- 1 システムの日付と時間の設定
- 1 RAID コントローラの設定 (該当する場合)
- 1 オペレーティングシステムの選択およびインストール、オペレーティングシステム固有の情報の指定
- 1 ハードドライブの構成
- 1 インストールの要約の表示

 **メモ:** オペレーティングシステムをインストールするには、オペレーティングシステムのメディアが必要です。

サーバーセットアッププログラムを起動するには、Dell OpenManage Server Assistant メイン画面で、Server Setup (サーバーのセットアップ) をクリックします。

画面の指示に従います。

ドライバとユーティリティのアップデート

Microsoft® Internet Explorer 4.0 以降、または Netscape Navigator 6.0 以降がインストールされているシステムでは、ドライバとユーティリティをアップデートすることができます。Microsoft Windows® オペレーティングシステムを使用しているシステムの CD ドライブに CD を挿入すると、ブラウザが自動的に起動し、Dell OpenManage Server Assistant メイン画面が表示されます。

ドライバとユーティリティをアップデートするには、次の手順を実行します。

1. Dell OpenManage Server Assistant メイン画面から、ドライバとユーティリティのアップデート用のオプションを選びます。
2. ドロップダウンボックスからシステムのモデル番号を選びます。
3. アップデートするドライバまたはユーティリティのタイプを選びます。
4. Continue (続行) をクリックします。
5. アップデートする各ドライバまたはユーティリティを選びます。

プログラムを実行するか、ファイルを保存する場所を指定するように指示されます。

6. プログラムを実行するか、ファイルを保存する場所を指定します。

ユーティリティパーティションの使い方

ユーティリティパーティションはハードドライブ上の起動パーティションであり、システム設定や診断ユーティリティが格納されています。ユーティリティパーティションを起動すると、パーティションのユーティリティ用の実行環境が提供されます。

ユーティリティパーティションを起動するには、電源を入れるか、システムを再起動します。電源投入時の自己診断 (POST) 中に、次の画面が表示された直後に <F10> を押します。

<F10> = Utility Mode

 **メモ:** ユーティリティパーティションで利用できる MS-DOS® 機能は限られており、汎用の MS-DOS ソフトウェアとして使用することはできません。

ユーティリティパーティションでは、テキストベースのインタフェースによってパーティションのユーティリティを実行します。メニューオプションを選択するには、矢印キーを使ってオプションをハイライト表示してから <Enter> を押すか、またはメニューオプション番号を入力します。ユーティリティパーティションを終了するには、Utility Partition メインメニューから <Esc> を押します。

表 2-1 に、ユーティリティパーティションメニューで表示されるオプションのサンプル一覧とその説明を示します。これらのオプションは、Server Assistant CD が CD ドライブに入っていない場合でも使用できます。

表 2-1 ユーティリティパーティションのメインメニューオプション

オプション	説明
Run system diagnostics	システムハードウェアの診断プログラムを実行します。
Run RAID configuration utility	ROMB または RAID コントローラードが取り付けられている場合、RAID 設定ユーティリティを実行します。

メモ: 表示されるオプションはシステム設定によって変わるため、この一覧にあるオプションでも表示されない場合があります。

[メモ、注意および警告](#)

セットアップユーティリティの使い方

Dell™ PowerEdge™ 750 システム ユーザーズガイド

- [セットアップユーティリティの起動](#)
- [セットアップユーティリティのオプション](#)
- [システムパスワードとセットアップパスワードの機能](#)
- [忘れてしまったパスワードの無効化](#)
- [管理タグ設定ユーティリティ](#)

システムのセットアップが完了したら、システム設定およびオプション設定を理解するために、セットアップユーティリティを起動します。表示された情報を将来の参考のために記録しておきます。

セットアップユーティリティは、次のような場合に使用できます。

- 1 ハードウェアを追加、変更、または取り外した後に、NVRAM に保存されたシステム設定を変更する。
- 1 時間や日付などのユーザーが選択可能なオプションを設定または変更する。
- 1 内蔵デバイスを有効または無効にする。
- 1 取り付けられたハードウェアと設定との間の不一致を修正する。

セットアップユーティリティの起動

- 1 システムの電源を入れるか、再起動します。
- 2 次のメッセージが表示されたら、ただちに <F2> を押します。

<F2> = System Setup

<F2> を押す前にオペレーティングシステムのロードが開始された場合は、システムの起動が完了するのを待ってから、もう一度システムを再起動させて、この手順を実行してください。

 **メモ:** システムシャットダウンの正しい順序を確認するには、オペレーティングシステム同梱のマニュアルを参照してください。

エラーメッセージへの対応

特定のエラーメッセージに対応することによって、セットアップユーティリティを起動できます。システムの起動中にエラーメッセージが表示された場合、メッセージをメモしてください。セットアップユーティリティを起動する前に、『インストール&トラブルシューティングガイド』の「システムビープコード」および「システムメッセージ」を参照して、メッセージの意味やエラーの修正方法を調べてください。

 **メモ:** メモリのアップグレード後、最初にシステムを起動する際に、システムメッセージが表示されるのは正常です。

セットアップユーティリティの使い方

[表 3-1](#) に、セットアップユーティリティ画面で情報を表示したり変更したり、プログラムを終了するときを使うキーの一覧を示します。

表 3-1 セットアップユーティリティの操作キー

キー	動作
----	----

上矢印または <Shift><Tab>	前のフィールドに移動します。
下矢印または <Tab>	次のフィールドへ移動します。
スペースキー、<+>、<->、および左右矢印	フィールド内の設定値を順に切り替えます。多くのフィールドでは、適切な値を入力することもできます。
<Esc>	セットアップユーティリティを終了し、設定を変更した場合は、システムを再起動します。
<F1>	セットアップユーティリティのヘルプファイルを表示します。

メモ: ほとんどのオプションでは、変更内容は自動的に記録されますが、システムを再起動するまでは有効になりません。

セットアップユーティリティのオプション

Main 画面

セットアップユーティリティを起動すると、セットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。図 3-1 を参照してください。

図 3-1 セットアップユーティリティのメイン画面

```

Dell Inc. (www.dell.com) - PowerEdge 750

Intel® Pentium® 4 Processor          BIOS Version: XXXX
Processor Speed: XXXX MHz           Service Tag : XXXXXX

System Time ..... 08:15:45
System Date ..... Fri Nov 7, 2003

Diskette Drive A: ..... 3.5 inch, 1.44 MB

System Memory ..... 512 MB ECC DDR
Memory Configuration ..... Dual Channel Mode
Video Memory ..... 8 MB SDRAM

OS Install Mode ..... Off
CPU Information ..... <ENTER>

IDE Primary Drive 0 ..... CD-ROM Reader

SATA Port 0 ..... Hard Disk
SATA Port 1 ..... Off

Boot Sequence ..... <ENTER>
Hard-Disk Drive Sequence ..... <ENTER>
USB Flash Drive Emulation Type ..... Auto

Integrated Devices ..... <ENTER>
PCI IRQ Assignment ..... <ENTER>

Console Redirection ..... <ENTER>

System Security ..... <ENTER>

Keyboard NumLock ..... On
Report Keyboard Errors ..... Report

Asset Tag ..... XXXXXX

Up,Down Arrow to select | SPACE,+, - to change | ESC to exit | F1=HELP

```

表 3-2 に、セットアップユーティリティのメイン画面に表示される情報フィールドのオプションの一覧および説明を示します。

メモ: 該当する場合、セットアップユーティリティのデフォルト設定をそれぞれのオプションの下に示します。

表 3-2 セットアップユーティリティのオプション

オプション	説明
System Time	システム内蔵時計の時刻を設定します。
System Date	システム内蔵カレンダーの日付を設定します。
Diskette Drive A:	3.5 インチディスクドライブがシステムに取り付けられているかどうかを表示します。このオプションにはユーザーが選択できる設定はありません。
System Memory	システムメモリの容量を表示します。このオプションにはユーザーが選択できる設定はありません。
Memory Configuration	メモリ構成を表示します(シングルチャネルまたデュアルチャネルモード)。

Video Memory	ビデオメモリの容量を表示します。このオプションにはユーザーが選択できる設定はありません。
OS Install Mode (デフォルトは Off)	オペレーティングシステムが利用可能なメモリの最大容量を指定します。On は最大容量を 256 MB に設定します。Off に設定すると、すべてのシステムメモリをオペレーティングシステムで利用できるようになります。オペレーティングシステムの中には、2 GB 以上のシステムメモリではインストールできないものもあります。このオプションは、オペレーティングシステムのインストール中に有効にし (On)、インストールが終了したら無効にします (Off)。
CPU Information (デフォルトは Logical Processor Enabled)	マイクロプロセッサに関する情報を表示します (速度、キャッシュサイズなど)。 ハイバースレディング対応のプロセッサが取り付けられている場合は、この機能を有効または無効にすることができます。
IDE Primary Drive 0	IDE デバイスのドライブタイプを設定します。
SATA Port 0 SATA Port 1	SATA ハードドライブのドライブタイプを設定します。
Boot Sequence (デフォルトは Diskette First)	システム起動時にシステムが起動デバイスを検索する順番を指定します。利用可能なオプションは、ディスクドライブ、CD ドライブ、ハードドライブ、およびネットワークです。
Hard-Disk Drive Sequence	システム起動時にシステムがハードドライブを検索する順番を指定します。お使いのシステムに取り付けられているハードドライブによって、選択肢が異なります。
USB Flash Drive Emulation Type (デフォルトは Auto)	USB フラッシュドライブのエミュレーションタイプを指定します。オプションは、Auto、Hard disk、および Floppy です。
Integrated Devices	「Integrated Devices 画面」 を参照してください。
PCI IRQ Assignment	PCI バス上の各内蔵デバイスに割り当てられている IRQ、および IRQ を必要とするすべての搭載済み拡張カードが変更できる画面を表示します。
Console Redirection	「Console Redirection 画面」 を参照してください。
System Security	システムパスワードおよびセットアップパスワード機能を設定する画面を表示します。詳細については、 「システムパスワードの使い方」 および 「セットアップパスワードの使い方」 を参照してください。
Keyboard NumLock (デフォルトは On)	101 または 102 キーのキーボードで、起動時に NumLock モードを有効にするかどうかを指定します (84 キーのキーボードには適用されません)。
Report Keyboard Errors (デフォルトは Report)	POST 中のキーボードエラーの報告を有効または無効にします。キーボードが取り付けられたホストシステムでは、このオプションを有効にします。Do Not Report を選ぶと、POST 中に検出されたキーボードまたはキーボードコントローラに関連するすべてのエラーメッセージが省略されます。キーボードがシステムに取り付けられている場合、この設定はキーボード自体の操作に対する影響はありません。
Asset Tag	管理タグ番号が割り当てられている場合、ユーザーがプログラム可能なシステムの管理タグ番号を表示します。10 文字までの管理タグ番号を NVRAM に割り当てるには、 「管理タグ設定ユーティリティ」 を参照してください。

Integrated Devices 画面

表 3-3 に、Integrated Devices 画面に表示される情報フィールドのオプションの一覧および説明を示します。

表 3-3 Integrated Devices 画面のオプション

オプション	説明
Diskette Controller (デフォルトは Auto)	システムのディスクドライブコントローラを有効または無効にします。Auto を選択すると、拡張スロットに取り付けられているコントローラカードを使用する必要がある場合、システムのディスクドライブコントローラはオフになります。ドライブを読み取り専用設定することもできます。読み取り専用設定を使うと、ディスクドライブを使用してディスクに書き込むことができなくなります。
Integrated Drive Controller	システムの内蔵ドライブコントローラを有効または無効にします。このオプションを使うと、すべての IDE または SATA ポートを同時に有効または無効にできます。
USB Controller (デフォルトは On with BIOS support)	システムの USB ポートを有効または無効にします。オプションは、On with BIOS support、On without BIOS support、または Off です。USB ポートを無効にするとその他のデバイスがシステムリソースを利用できるようになります。
Embedded Gb NIC1 Embedded Gb NIC2	システムの内蔵ネットワークアダプタを有効または無効にします。オプションは、Enabled without PXE、Enabled with PXE、および Disabled です。PXE をサポートしている場合は、ネットワークからシステムを起動できます。変更はシステムの再起動後に有効になります。
Embedded Gb NIC1 MAC Address Embedded Gb NIC2 MAC Address	各内蔵ネットワークアダプタの MAC アドレスを表示します。このフィールドには、ユーザーが選択できる設定はありません。
Serial Port (デフォルトは Auto)	シリアルポートのオプションは、COM1、COM3、Auto、および Off です。 シリアルポートが Auto に設定されている場合、内蔵ポートは自動的に最初に COM1、次に COM3 の使用を試みます。両方のアドレスが使用されている場合、ポートは無効になります。 シリアルポートを Auto に設定し、同じ指定先に設定されたポートを搭載した拡張カードを追加した場合、システムでは内蔵ポートが次の利用可能な同じ IRQ 設定を共有するポートに指定されるように自動的に再マップします。
Speaker	内蔵スピーカーを On または Off にします。このオプションへの変更はただちに有効になります (再起動の必要はありません)。

(デフォルトはOn)

System Security 画面

表 3-4 に、System Security 画面の情報フィールドに表示されるオプションの一覧および説明を示します。

表 3-4 System Security 画面のオプション

オプション	説明
System Password	システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態を表示し、新しいシステムパスワードを設定して確認することができます。 メモ: システムパスワードの設定、および既存のシステムパスワードの使用または変更の手順については、「 システムパスワードの使い方 」を参照してください。
Password Status	Setup Password オプションを Enabled に設定すると、システム起動時にシステムパスワードを変更したり、無効にすることはできません。 システムパスワードをロックするには、まず Setup Password オプションでセットアップパスワードを設定し、次に Password Status オプションを Locked に変更します。この状態では、System Password オプションを使ってシステムパスワードを変更したり、<Ctrl><Enter> を押してシステム起動時にパスワードを無効にすることはできません。 システムパスワードのロックを解除するには、まず Setup Password フィールドでセットアップパスワードを入力し、次に Password Status オプションを Unlocked に変更します。この状態では、<Ctrl><Enter> を押してシステム起動時にシステムパスワードを無効にしたり、System Password オプションを使ってシステムパスワードを変更することができます。
Setup Password	システムパスワード機能を使ってシステムへのアクセスを制限するのと同じ要領で、セットアップユーティリティへのアクセスを制限できます。 メモ: セットアップパスワードの設定、および既存のセットアップパスワードの使用または変更の手順については、「 セットアップパスワードの使い方 」を参照してください。
Power Button	システムの電源を切ったり入れたりする電源ボタンの機能を設定します。 <ul style="list-style-type: none">電源ボタンを使ってシステムの電源を切る際に、ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行している場合、システムは電源が切れる前に正常なシャットダウンを実行することができます。システムが ACPI 対応のオペレーティングシステムを実行していない場合、電源ボタンを押すとただちに電源が切れます。 電源ボタンは、セットアップユーティリティで有効にされます。無効に設定すると、電源ボタンはシステムの電源を入れる場合にのみ使用できません。 メモ: Power Button オプションが Disabled に設定されていても、電源ボタンを使ってシステムの電源を入れることは可能です。オプション設定が Disabled に変更された場合、変更は次のシステム起動時まで有効にはなりません。電源ボタンは POST 実行中はずっと有効で、オペレーティングシステムが起動する前に無効になります。
Chassis Intrusion	システムにリモートアクセスコントローラ (RAC) が取り付けられていない場合、このフィールドを使ってシャーシントルーजन検出機能を有効または無効に設定できます。このオプションが Enabled-Silent に設定されている場合、シャーシントルーजनは検出されますが、システム起動時に警告メッセージは報告されません。このオプションが Enabled に設定されている場合、シャーシカバーが取り外されると、このフィールドに自動的に Detected と表示されます。シャーシカバーが取り外されたことを確認し、将来のセキュリティ侵害に備えるには、いずれかの編集キーを押します。 システムにリモートアクセスコントローラが取り付けられている場合、このオプションは表示されません。
AC Power Recovery	このオプションを On に設定した場合、停電後に電力が回復したときシステム電源が自動的にオンになります。このオプションを Last に設定した場合、システムは AC 電源が停電する前の状態に戻ります。
NMI Button	システム基板上の NMI (マスク不能型割り込み) スイッチを有効または無効にします。 訓練を受けたサービス技術者がシステムがロックアップした後に NMI スイッチを押した場合、オペレーティングシステムはシステムメモリの内容を診断の目的でシステムのハードドライブにコピーします。

Console Redirection 画面

表 3-5 に、Console Redirection 画面に表示される情報フィールドのオプションの一覧および説明を示します。コンソールリダイレクションの使い方の詳細については、「[コンソールリダイレクションの使い方](#)」を参照してください。

表 3-5 Console Redirection 画面のオプション

オプション	説明
Console Redirection (デフォルトは Off)	コンソールリダイレクション機能を有効または無効にします。有効に設定した場合、オプションは Serial Port 1 (RAC [リモートアクセスカード]が取り付けられていない場合)、または RAC (RAC が取り付けられている場合)です。
Remote Terminal Type (デフォルトは VT 100/VT 220)	VT 100 / VT 220 または ANSI を選択します。

Redirection After Boot (デフォルトは Enabled)	システム再起動後、コンソールリダイレクションを有効または無効にします。
--	-------------------------------------

Exit 画面

<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了すると、Exit 画面に次のオプションが表示されます。

- 1 Save Changes and Exit
- 1 Discard Changes and Exit
- 1 Return to Setup

システムパスワードとセットアップパスワードの機能

- **注意:** パスワード機能は、システム内のデータに対して基本的なセキュリティを提供します。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能を使用してください。
- **注意:** システムパスワードを設定せずに動作中のシステムから離れたり、システムをロックせずに放置した場合、第三者がジャンパの設定を変更して、パスワード機能を無効にすることができます。この結果、誰でもシステムに保存された情報にアクセスできるようになります。

お使いのシステムは、出荷時にはシステムパスワード機能が有効になっていません。システムのセキュリティが必要な場合、システムパスワード保護機能を有効にしてシステムを操作してください。

既存のパスワードを変更したり削除するには、そのパスワードを事前知っておく必要があります(「[既存のシステムパスワードの削除または変更](#)」を参照)。パスワードを忘れると、訓練を受けたサービス技術者がシステムシャーシを開き、パスワードジャンパの設定を変更してパスワードを無効にし、既存のパスワードを消去するまで、システムを操作したり、セットアップユーティリティの設定を変更できません。この手順は、『インストール&トラブルシューティングガイド』に記載されています。

システムパスワードの使い方

システムパスワードを設定すると、パスワードを知っているユーザーでなければ、システムの全機能を使用することはできません。System Password オプションが Enabled に設定されている場合、システムパスワード要求のプロンプトがシステムの起動後に表示されます。

システムパスワードの設定

システムパスワードを設定する前に、まずセットアップユーティリティを起動して、SystemPassword オプションを確認します。

システムパスワードが設定されている場合、System Password オプションの設定は Enabled です。Password Status が Unlocked に設定されている場合、システムパスワードを変更できます。Password Status オプションが Locked に設定されている場合、システムパスワードは変更できません。ジャンパ設定によってシステムパスワード機能が無効になっている場合、その設定は Disabled で、システムパスワードを変更したり新しいシステムパスワードを入力することはできません。

システムパスワードが設定されておらず、システム基板上のパスワードジャンパが有効な位置(デフォルト)に設定されている場合、System Password オプションは Not Enabled と表示され、Password Status フィールドは Unlocked と表示されます。システムパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. Password Status オプションが Unlocked に設定されていることを確認します。
2. System Password オプションをハイライト表示して、<Enter> を押します。
3. このフィールドに新しいシステムパスワードを入力します。

パスワードには 32 文字まで使用できます。

いずれかの文字キー (またはブランクスペースとしてスペースキー) を押すと、フィールドには文字の代わりにプレースホルダが表示されます。

パスワードの設定では、大文字と小文字は区別されません。ただし無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、ピープ音が鳴ります。入力したパスワードを訂正するには、<バックスペース> または左矢印キーを押して文字を消去します。

 **メモ:** システムパスワードの設定を途中で中止したい場合、<Enter> を押して別のフィールドに移動するか、手順 5 を終了する前に <Esc> を押しします。

4. <Enter> を押します。
5. パスワードを確認するために、もう一度同じパスワードを入力して、<Enter> を押します。

System Password の設定表示が Enabled に変わります。セットアップユーティリティを終了して、システムを使用します。

6. ここでシステムを再起動してパスワード保護機能を有効にするか、作業を続けます。

 **メモ:** システムを再起動するまでパスワード保護機能は有効になりません。

システムを保護するためのシステムパスワードの使い方

 **メモ:** セットアップパスワードを設定している場合 (「[セットアップパスワードの使い方](#)」を参照)、システムはセットアップパスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

Password Status オプションが Unlocked に設定されている場合、パスワードセキュリティを有効にしたり無効にしたりできます。

パスワードセキュリティを有効にするには、次の手順を実行します。

1. システムの電源を入れるか、<Ctrl><Alt> を押してシステムを再起動します。
2. <Enter> を押します。
3. パスワードを入力し、<Enter> を押します。

パスワードセキュリティを無効にするには、次の手順を実行します。

1. システムの電源を入れるか、<Ctrl><Alt> を押してシステムを再起動します。
2. <Ctrl><Enter> を押します。

Password Status オプションが Locked に設定されている場合、システムを起動したり <Ctrl><Alt> を押して再起動するたびに、プロンプト画面でパスワードを入力して <Enter> を押します。

正しいシステムパスワードを入力した後、<Enter> を押して通常どおりにシステムを操作します。

間違っシステムパスワードが入力された場合、システムはメッセージを表示し、パスワードを再入力するよう求めます。3 回目までに正しいパスワードを入力します。間違っパスワードが 3 回入力されると、システムは間違っパスワードの入力回数を表示するエラーメッセージを表示し、システムが停止し、シャットダウンします。このメッセージは、認証されていないユーザーがシステムの使用を試みたことを警告します。

システムをシャットダウンして再起動しても、正しいパスワードが入力されるまで、このエラーメッセージが表示されます。

 **メモ:** Password Status オプションの他に System Password と Setup Password オプションも併用すると、無許可の変更からシステムを保護することができます。

既存のシステムパスワードの削除または変更

1. プロンプトが表示されたら、<Ctrl><Enter> を押して既存のシステムパスワードを無効にします。

セットアップパスワードを入力するよう求められた場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

2. POST 中に <F2> を押して、セットアップユーティリティを起動します。
3. **System Security** 画面フィールドを選んで、**Password Status** オプションが **Unlocked** に設定されていることを確認します。
4. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
5. **System Password** オプションに **Not Enabled** と表示されていることを確認します。

System Password オプションに **Not Enabled** と表示されている場合、システムパスワードは削除されています。**System Password** オプションに **Enabled** が表示されている場合は、<Alt> を押してシステムを再起動し、手順 2 ~ 手順 5 を繰り返します。

セットアップパスワードの使い方

セットアップパスワードの設定

セットアップパスワードは、**Setup Password** オプションが **Not Enabled** に設定されている場合のみ、設定(または変更)できます。セットアップパスワードを設定するには、**Setup Password** オプションをハイライト表示して、<+> または <-> キーを押します。パスワードの入力と確認を求めるプロンプトが表示されず。パスワードに使用できない文字を指定すると警告のビープ音が鳴ります。

 **メモ:** セットアップパスワードとシステムパスワードを同じにすることもできます。2 つのパスワードを別にした場合、セットアップパスワードはシステムパスワードの代わりに使用することができます。ただし、システムパスワードをセットアップパスワードの代わりに使用することはできません。

パスワードには 32 文字まで使用できます。

いずれかの文字キー(または空白スペースとしてスペースキー)を押すと、フィールドには文字の代わりにプレースホルダが表示されます。

パスワードの設定では、大文字と小文字は区別されません。ただし無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせで入力すると、ビープ音が鳴ります。入力したパスワードを訂正するには、<バックスペース> または左矢印キーを押して文字を消去します。

パスワードの確認が終わると、**Setup Password** の設定は **Enabled** に変わります。次にセットアップユーティリティを起動すると、システムはセットアップパスワードの入力を求めます。

Setup Password オプションへの変更は、ただちに有効になります(システムを再起動する必要ありません)。

セットアップパスワードが有効な場合の操作

Setup Password が **Enabled** に設定されている場合、正しいセットアップパスワードを入力しないと、ほとんどのセットアップオプションを変更できません。セットアップユーティリティを起動すると、プロンプトが表示され、パスワードを入力するよう求められます。

3 回目までに正しいパスワードを入力しないと、**System Setup** 画面は表示されますが、次の場合を除いて変更することはできません。**System Password** が **Enabled** に設定されておらず、また **Password Status** オプションを使ってロックされていない場合、システムパスワードを設定できます(ただし、既存のシステムパスワードを無効にしたり変更することはできません)。

 **メモ:** Setup Password オプションと Password Status オプションを併用すると、無許可の変更からシステムパスワードを保護することができます。

既存のセットアップ パスワードの削除または変更

1. セットアップユーティリティを起動して、System Security オプションを選びます。
2. Setup Password オプションをハイライト表示し、<Enter> を押してセットアップパスワードウィンドウにアクセスし、<Enter> を 2 回押して既存のセットアップパスワードをクリアします。

設定が Not Enabled に変わります。

3. 新しいセットアップパスワードを設定する場合、「[セットアップパスワードの設定](#)」の手順を実行します。

忘れてしまったパスワードの無効化

『インストール&トラブルシューティングガイド』を参照してください。

管理タグ設定ユーティリティ

管理タグ設定ユーティリティを使って、固有のトラッキング番号をシステムに割り当てることができます。この番号は、セットアップユーティリティのメイン画面に表示されます。

 **メモ:** 管理タグ設定ユーティリティは、MS-DOS® ベースのアプリケーションをサポートするオペレーティングシステムでのみ機能します。

管理タグ設定ユーティリティディスクットの作成

1. Microsoft® Windows® オペレーティングシステムを実行しているシステムの CD ドライブに『Dell OpenManage Server Assistant CD』を挿入し、システムを再起動します。
2. 空のディスクットをシステムのディスクットドライブに挿入します。
3. Dell OpenManage Server Assistant メイン画面で、System Tools (システムツール)をクリックします。
4. Create CD Boot Diskette (CD 起動ディスクットの作成)を選びます。

管理タグ番号の割り当てまたは削除

1. 作成した管理タグ設定ユーティリティディスクットをディスクットドライブに挿入し、システムを再起動します。
2. 管理タグ番号は、割り当てることも削除することもできます。
 - 1 管理タグ番号を割り当てるには、asset とスペースを入力し、その後に新しい文字列を入力します。

管理タグ番号は最大で 10 文字です。すべての文字の組み合わせが有効です。たとえば、a:\> プロンプトで、次のコマンドを入力し、<Enter> を押します。

```
asset 12345abcde
```

- 1 1 新しい番号を割り当てずに管理タグ番号を削除するには、asset /d と入力して、<Enter> を押します。
3. 管理タグ番号の変更を確認するよう指示されたら、y と入力し、<Enter> を押します。

管理タグ設定ユーティリティのヘルプ画面を表示するには、`asset /?` と入力し、<Enter> を押します。

[メモ、注意および警告](#)

用語集

Dell™ PowerEdge™ 750 システム ユーザーズガイド

ここではシステムマニュアルで使用される技術用語、略語の意味を示します。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interface の略語。オペレーティングシステムで直接設定と電源管理を行うための標準インターフェースです。

AC

Alternating Current (交流電流) の略語。

ANSI

American National Standards Institute の略語。
米国の主要技術標準開発機関です。

ASCII

American Standard Code for Information Interchange (情報交換用米国標準コード) の略語。

A

Ampere (アンペア) の略語。

BIOS

Basic Input/Output System (基本入出力システム) の略語。コンピュータの BIOS は、フラッシュメモリチップに格納された複数のプログラムから成ります。BIOS は、次の事項を制御します。

- 1 プロセッサと周辺機器との間の通信
- 1 システムメッセージなどの種々の機能

BMC

Baseboard Management Controller
(ベースボード管理コントローラ) の略語。

BTU

British Thermal Unit (英国熱量単位) の略語。

C

Celsius (摂氏) の略語。

CD

Compact Disc (コンパクトディスク) の略語。CD ドライブでは光学技術を利用して、CD からデータを読み取ります。

COM n

コンピュータのシリアルポートに対するデバイス名 (n は整数値)。

DC

Direct Current (直流電流) の略語。

DDR

Double Data Rate (ダブルデータ速度) の略語。
出力を 2 倍にできるメモリモジュールの技術です。

DHCP

Dynamic Host Configuration Protocol (動的ホスト構成プロトコル) の略語。クライアントシステムに自動的に IP アドレスを割り当てるための方法です。

DIMM

Dual In-line Memory Module (デュアルインラインメモリモジュール) の略語。「メモリモジュール」も参照してください。

DIN

Deutsche Industrie Norm (ドイツ工業規格) の略語。

DMA

Direct Memory Access (ダイレクトメモリアクセス) の略語。DMA チャンネルを使うと、RAM とデバイス間で特定のタイプのデータ転送を、プロセッサを介さずに直接行うことができます。

DMI

Desktop Management Interface の略語。DMI を使えば、オペレーティングシステム、メモリ、周辺機器、拡張カード、管理タグなどのシステムコンポーネントに関する情報を集めて、コンピュータシステムのソフトウェアとハードウェアを統合的に管理することができます。

DNS

Domain Name System (ドメインネームシステム) の略語。DNS は、たとえば www.dell.com のようなインターネットのドメインネームを 143.166.83.200 のような IP アドレスに変換する方法です。

DRAM

Dynamic Random-Access Memory (ダイナミックランダムアクセスメモリ) の略語。通常、コンピュータの RAM は DRAMチップ のみで構成されます。

DVD

Digital Versatile Disc の略語。

ECC

Error Checking and Correction (エラー検出/訂正) の略語。

EEPROM

Electrically Erasable Programmable Read-Only Memory (電氣的消去可能なプログラマブル読み取り専用メモリ) の略語。

EMC

ElectroMagnetic Compatibility
(電磁的両立性)の略語。

EMI

ElectroMagnetic Interference(電磁干渉)の略語。

ESD

ElectroStatic Discharge(静電気放電)の略語。

FAT

File Allocation Table(ファイルアロケーションテーブル)の略語。FAT はファイル保存の記録と管理のために MS-DOS で使用されるファイルシステム構造です。

F

Fahrenheit(華氏)の略語。

FSB

Front-Side Bus(フロントサイドバス)の略語。FSB はプロセッサとメインメモリ (RAM) 間のデータ伝送路および物理インタフェースです。

ft

feet(フィート)の略語。

FTP

File Transfer Protocol
(ファイル転送プロトコル)の略語。

Gb

Gigabit(ギガビット)の略語。
 $1 \text{ Gb} = 1024 \text{ Mb} = 1,073,741,824 \text{ ビット}$ 。

GB

Gigabyte(ギガバイト)の略語。 $1 \text{ GB} = 1024 \text{ MB} = 1,073,741,824 \text{ バイト}$ 。ただし、ハードドライブの容量を表すときには、 1000 MB (10 億バイト) を意味する場合もあります。

g

gram(グラム)の略語。

G

Gravity(重力加速度)の略語。

h

hexadecimal(16 進)の略語。16 進法は 16 を基数にした記数法で、コンピュータの RAM アドレスやデバイスの I/O メモリアドレスを指定するためによく使用されます。一般に 16 進数の後には h を付けて表記します。

Hz

Hertz(ヘルツ)の略語。

I/O

Input/Output(入出力)の略語。キーボードは入力デバイスで、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O 処理は計算処理とは区別されます。

IDE

Integrated Drive Electronics の略語。IDE はシステム基板とストレージデバイス間の標準インタフェースです。

ID

識別のためのコード。

IP

Internet Protocol
(インターネットプロトコル)の略語。

IRQ

Interrupt Request(割り込み要求)の略語。周辺機器がデータを送信または受信しようとする場合、必要な処理をプロセッサに要求する信号が IRQ 信号線を介して送られます。コンピュータに接続する各周辺機器には IRQ 番号を割り当てる必要があります。2 つの機器が同じ IRQ 番号を共有することはできません、両方の機器を同時に動作させることはできません。

K

1000 を表すキロ(kilo)の略語。

Kb

Kilobit(キロビット)の略語。1 Kb = 1024 ビット。

KB

Kilobyte(キロバイト)の略語。1 KB = 1024 バイト。

Kbps

Kilobits per second(1 秒あたりのキロビット数)の略語。

KBps

Kilobytes per second(1 秒あたりのキロバイト数)の略語。

kg

kilogram(キログラム)の略語。1 kg = 1000 グラム。

KMM

Keyboard/Monitor/Mouse
(キーボード/モニタ/マウス)の略語。

KVM

Keyboard/Video/Mouse(キーボード/ビデオ/マウス)の略語。KVM は、キーボード、マウス、ディスプレイを共有する複数のコンピュータを切り替えて使用するための装置です。

LAN

Local Area Network (ローカルエリアネットワーク) の略語。通常、LAN のシステム構成は同じ建物内部または隣接した少数の建物に限定され、すべての装置が LAN 専用のケーブルで接続されます。

lb

Pound (ポンド) の略語。

LCD

Liquid Crystal Display (液晶ディスプレイ) の略語。

LED

Light-Emitting Diode (発光ダイオード) の略語。LED は電流が流れると点灯する電子部品です。

Linux

多様なハードウェアシステムで実行可能な UNIX® 互換のオペレーティングシステム。Linux はソースコードが公開されているソフトウェアで、無償で入手できます。ただし、Red Hat Software 社などでは、Linux のさまざまなソフトウェアを含む配布パッケージとともに、テクニカルサポートとトレーニングを有償で提供しています。

MAC アドレス

Media Access Control (メディアアクセスコントロール) アドレス。MAC アドレスはネットワーク上のシステムのハードウェアに付けられた固有の番号です。

mA

milliampere (ミリアンペア) の略語。

Mb

Megabit (メガビット) の略語。
1 Mb = 1,048,576 ビット。

MB

Megabyte (メガバイト) の略語。1 MB = 1,048,576 バイト。ただし、ハードドライブの容量を表すときには、1 MB = 1,000,000 バイトを意味する場合があります。

Mbps

Megabits per second
(1秒あたりのメガビット数) の略語。

MBps

Megabytes per second
(1秒あたりのメガバイト数) の略語。

MBR

Master Boot Record
(マスタブートレコード) の略語。

MHz

Megahertz (メガヘルツ) の略語。

m

meter (メートル) の略語。

mm

millimeter(ミリメートル)の略語。

MS-DOS

Microsoft Disk Operating System の略語。

ms

millisecond(ミリ秒)の略語。

NIC

Network Interface Controller(ネットワークインタフェースコントローラ)の略語。コンピュータに取り付けられたネットワーク接続用のデバイスです。

NMI

Nonmaskable Interrupt(マスク不能割り込み)の略語。デバイスは NMI を送信して、ハードウェアエラーをプロセッサに知らせます。

NVRAM

Nonvolatile Random-Access Memory(不揮発性ランダムアクセスメモリ)の略語。コンピュータの電源を切っても情報が失われないメモリです。NVRAM は、日付、時刻、システム設定情報の保持に使用されます。

PCI

Peripheral Component Interconnect の略語。
PCI は標準のローカルバス規格です。

PDU

Power Distribution Unit(配電ユニット)の略語。PDU は、複数のコンセントの付いた電源で、ラック内のサーバーやストレージシステムに電力を供給します。

PGA

Pin Grid Array の略語。プロセッサチップの取り外しが可能なプロセッサソケット。

POST

Power-On Self-Test(電源投入時の自己診断)の略語。コンピュータの電源を入れると、オペレーティングシステムがロードされる前に、RAM、ディスクドライブ、キーボードなどのさまざまなシステムコンポーネントがテストされます。

PS/2

Personal System/2 の略語。コンピュータの製品名ですが、コネクタの規格の意味でも使用されます。

PXE

Preboot eXecution Environment の略語。ハードドライブや起動用ディスクを使わずに、LAN を介してシステムを起動する方法です。

RAC

Remote Access Controller
(リモートアクセスコントローラ)の略語。

RAID

Redundant Array of Independent Disks の略語。データ冗長化のための技術です。普及している RAID には RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、RAID 50 があります。「ガーディング」、「ミラーリング」、「ストライピング」も参照してください。

RAM

Random-Access Memory (ランダムアクセスメモリ) の略語。プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。コンピュータの電源を切ると、RAM に保存されている情報はすべて失われます。

RAS

Remote Access Service (リモートアクセスサービス) の略語。この機能によって、Windows オペレーティングシステムを実行しているコンピュータのユーザーは、モデムを使って、ネットワークにリモートでアクセスできます。

readme ファイル

ソフトウェアやハードウェアの製品に付属しているテキストファイル。製品に関する補足情報やマニュアルのアップデート情報などが入っています。

ROMB

RAID on Motherboard
(マザーボード上の RAID) の略語。

ROM

Read-Only Memory (読み取り専用メモリ) の略語。コンピュータのプログラムの中には、ROM コードで実行しなければならないものがあります。RAM とは異なり、コンピュータの電源を切っても、ROM チップの内容は保持されます。ROM コードの例には、コンピュータの起動ルーチンと POST を起動するプログラムなどがあります。

rpm

revolutions per minute
(1分あたりの回転数) の略語。

SATA

Serial Advanced Technology Attachment の略語。SATA はシステム基板とストレージデバイス間の標準インターフェースです。

SCSI

Small Computer System Interface (小型コンピュータシステムインターフェース) の略語。標準のポートよりも速いデータ転送速度を持つ I/O バスインターフェースです。

SDRAM

Synchronous Dynamic Random-Access Memory
(シンクロナス DRAM) の略語。

sec

Second (秒) の略語。

SMART

Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology の略語。ハードドライブにエラーや障害があった場合に、システム BIOS に報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。

SMP

Symmetric MultiProcessing の略語SMPは、高バンド幅のリンクを介して複数のプロセッサを接続し、各プロセッサが同等な立場で I/O 処理を行うようにオペレーティングシステムによって管理する技法です。

SNMP

Simple Network Management Protocol の略語。SNMPは、ネットワーク管理者がリモートでワークステーションの監視および管理を行うための標準インタフェースです。

SVGA

Super Video Graphics Array の略語。VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

system.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、system.ini が参照されて、Windows 動作環境の各種オプションが設定されます。system.ini ファイルに記録されている情報には、Windows にインストールされているビデオ、マウス、キーボード用のドライバなどが含まれます。

UNIX

UNiversal Internet eXchange の略語。UNIX は、Linux の基になったオペレーティングシステムで、C 言語で書かれています。

UPS

Uninterruptible Power Supply(無停電電源装置)の略語。停電が発生するとコンピュータに自動的に電力を供給するバッテリー内蔵の電源装置のことです。

USB

Universal Serial Bus の略語。USB コネクタは、マウス、キーボードなど、USB 準拠の複数のデバイスに対応しています。USB デバイスはシステムの実行中でも取り付け、取り外しが可能です。

UTP

Unshielded Twisted Pair(シールドなしのツイストペア)の略語。職場や家庭でシステムを電話回線に接続するために使用するケーブルです。

VAC

Volt Alternating Current(交流電圧)の略語。

VDC

Volt Direct Current(直流電圧)の略語。

VGA

Video Graphics Array の略語。VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

V

Volt(ボルト)の略語。

WH

Watt-hour(ワット時)の略語。

win.iniファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、win.ini ファイルが参照されて、Windows の操作環境に関する各種オプションが設定されます。また、win.ini ファイルには、ハードドライブにインストールされている Windows アプリケーションプログラムのオプション設定を記述したセクションも含まれています。

Windows 2000

MS-DOS を必要としない完成した総合オペレーティングシステム。パフォーマンスと使いやすさが向上し、ワークグループ機能が拡張され、ファイル管理および参

照を簡単に行うことができます。

Windows Powered

NAS システム上で使用するために設計された Windows オペレーティングシステム。NAS システムの場合、Windows Powered オペレーティングシステムは、ネットワーククライアントのファイルサービスに特化しています。

Windows Server 2003

XML Web サービスを利用して、ソフトウェアの統合を図る Microsoft のソフトウェアテクノロジー。XML Web サービスは、ネットワーク経由でデータを送受信するための XML 言語を使って、別々に開発された再利用可能な小型のアプリケーション群です。

W

Watt (ワット) の略語。

XML

eXtensible Markup Language の略語。XML は、インターネット、イントラネット、その他のネットワークで形式とデータの両方を共有し、共通の情報形式を作成するための仕様です。

アップリンクポート

別のハブまたはスイッチに接続する際に使用するネットワークハブまたはスイッチ上のポート。クロスオーバーケーブルを必要としません。

アプリケーション

ユーザーが特定のタスクまたは一連のタスクを実行するのを助けるためのソフトウェア。アプリケーションは、オペレーティングシステムの機能を利用して実行されます。

ガーディング

複数の物理ドライブを一組にしてデータを格納し、さらにもう 1 台のドライブにパリティデータを格納するデータ冗長化の手法です。「ミラーリング」、「ストライピング」、「RAID」も参照してください。

キーの組み合わせ

複数のキーを同時に押す必要があるコマンド。たとえば、<Ctrl><Alt> のキーの組み合わせを押すとコンピュータを再起動できます。

キャッシュ

データを高速検索できるように、データまたは命令のコピーを保持するための高速記憶領域。プログラムがディスクドライブにあるデータを要求すると、ディスクキャッシュユーティリティによって、ディスクドライブよりも高速な RAM 内のキャッシュ領域にコピーされた同じデータが読み取られます。

グラフィックモード

水平ピクセル数(x) × 垂直ピクセル数(y) × 色数(z) で定義されるビデオモード。

グループ

DMI 関連では、グループは管理可能なコンポーネントについての共通の情報または属性を定義するデータ構造です。

コプロセッサ

コンピュータのプロセッサを特定の処理タスクから解放するためのチップ。たとえば、数値演算コプロセッサは数値演算処理を行います。

コントローラ

プロセッサとメモリ間、またはプロセッサと周辺機器間のデータ転送を制御するチップ。

コントロールパネル

電源ボタン、電源インジケータなどの、ボタンやインジケータを収めたシステムの部品。

コンベンショナルメモリ

RAM の最初の 640 KB。コンベンショナルメモリはすべてのコンピュータに存在します。MS-DOS® プログラムは、特別に設計されていない限り、コンベンショナルメモリ内で実行されます。

コンポーネント

DMI 関連では、管理可能なコンポーネントには、オペレーティングシステム、コンピュータシステム、拡張カード、および DMI 対応の周辺機器が含まれます。各コンポーネントは、そのコンポーネントに関連したものとして定義されるグループおよび属性で構成されます。

サービスタグナンバー

弊社カスタマーサポートまたはテクニカルサポートにお問い合わせになる際に、コンピュータを識別するためのバーコードラベル。

システムセットアップユーティリティ

コンピュータのハードウェア構成やパスワード保護などの機能を設定して、システムの動作をカスタマイズするための BIOS プログラム。セットアップユーティリティは NVRAM に保存されるため、設定は再度変更しない限り有効に維持されます。

システムディスク

「起動用ディスク」を参照してください。

システムメモリ

「RAM」を参照してください。

システム基板

コンピュータの主要な回路ボードであるシステム基板には、プロセッサ、RAM、周辺機器用コントローラ、各種 ROM チップなど、大部分の重要なコンポーネントが搭載されています。

システム設定情報

コンピュータに対して、取り付けられているハードウェアの種類と動作環境の設定を指示するデータ。メモリ内に保存されます。

シリアル ポート

一般に、コンピュータにモデムを接続するとき使用される I/O ポート。コンピュータのシリアルポートは、9 ピンのコネクタが使用されていることで識別できます。

ジャンパ

ジャンパは、回路基板上の小さなブロックで、複数のピンが突き出しています。ピンにはワイヤを格納したプラスチック製プラグが被せてあります。ワイヤはピン同士を接続して、回路を形成します。ジャンパを使用すれば、基板の回路構成を簡単に変更できます。

ストライピング

ストライピングは、3 台以上のハードディスクドライブを並べて 1 台のディスクドライブのように使用し（これをディスクアレイといいます）、データを各ディスクに分割して読み書きの速度を向上させます。ストライピングに使用される各ディスク内のスペース（ストライプ）は、各ディスクとも同じ容量です。仮想ディスクでは、ディスクアレイ内の一組のディスクのセットに対して複数のストライプを設定することもできます。「カーディング」、「ミラーリング」、「RAID」も参照してください。

ターミネータ

一部のデバイス（SCSI ケーブルの終端に接続されるデバイスなど）では、ケーブル内信号反射や不正信号を防止するための終端処理が必要です。このようなデバイスを連結する場合は、ジャンパまたはスイッチを変更するか、デバイスの設定ソフトウェアで設定を変更して、ターミネータを有効または無効にする必要があります。

ディレクトリ

ディレクトリを使用すると、関連性のあるファイルをディスク上で「逆ツリー」の階層構造に編成することができます。各ディスクには 1 つの「ルート」ディレクトリがあります。ルートディレクトリから分岐する下位のディレクトリは「サブディレクトリ」といいます。サブディレクトリの下には、さらに別のディレクトリが枝状につながっていることもあります。

デバイスドライバ

オペレーティングシステムやプログラムが周辺機器と正しくインタフェースできるようにするためのプログラム。デバイスドライバには、ネットワークドライバのように、システム起動時に config.sys ファイルによってロードされるものや、(通常 autoexec.bat ファイルによって) メモリ常駐プログラムとしてロードされるものがあります。その他のドライバは、各プログラムの起動時にロードされます。

バス

コンピュータ内部の各コンポーネント間のデータ伝送経路。たとえば、拡張バスは、プロセッサがコンピュータに接続された周辺機器用のコントローラと通信するための経路です。また、アドレスバスとデータバスは、プロセッサと RAM 間の通信に使用されます。

バックアップバッテリー

バックアップバッテリーは、コンピュータに電源が入っていないとき、メモリの特別なセクションに保存された日付、時刻、システム設定情報を保持します。

バックアップ

プログラムやデータファイルのコピー。安全対策として、コンピュータのハードディスクドライブは定期的にバックアップしてください。また、システム設定を変更する場合は、前もって重要な起動ファイルをオペレーティングシステムからバックアップしてください。

パーティション

fdisk コマンドを使用すると、パーティションと呼ばれる複数の物理セクションにハードドライブを分割できます。各パーティションには複数の論理ドライブを格納できます。各論理ドライブは format コマンドを使用してフォーマットする必要があります。

パリティ

データのブロックに添付する冗長情報。
データ転送の誤りの検出に使用されます。

ビーブコード

システムのスピーカーから聞こえるビーブ音のパターンによる診断メッセージ。たとえば、1 回鳴った後にもう 1 回鳴ってから連続して 3 回鳴った場合、ビーブコードは 1-1-3 です。

ビット(bit)

システムによって認識される情報の最小単位。

ビデオアダプタ

モニタ(ディスプレイ)と連携してコンピュータのビデオ機能を実現するための論理回路。ビデオアダプタはシステム基板に組み込まれている場合や拡張スロットに装着する拡張カードの場合があります。

ビデオドライバ

選択された色数と希望の解像度を、グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムの画面に表示するためのプログラム。取り付けられたビデオアダプタに合わせて、対応するビデオドライバが必要になることもあります。

ビデオメモリ

ほとんどの VGA ビデオアダプタと SVGA ビデオアダプタには、システムの RAM とは別に、メモリチップが内蔵されています。プログラムが表示できる色数は、主として取り付けられたビデオメモリの容量によって決まります(他の要因としては、ビデオドライバとモニタの性能があります)。

ビデオ解像度

ビデオ解像度は、「横方向のピクセル数×縦方向のピクセル数」で表されます (例: 800 x 600)。特定の解像度でプログラムの画面を表示するには、ディスプレイがその解像度をサポートしていて、適切なビデオドライバがインストールされていなければなりません。

ピクセル

ビデオ画面上の単一の点。画像は、ピクセルを縦横に配置することで作成されています。640 x 480 などのビデオ解像度は、横のピクセル数 × 縦のピクセル数の形で示したものです。

フォーマット

ファイルを格納できるように、ハードドライブやディスクを設定すること。無条件でフォーマットを行うと、ディスクに格納された全データが消去されます。

フラッシュメモリ

コンピュータに取り付けたまま、ディスク内のユーティリティを使って再プログラミングできる EEPROM チップ。一般の EEPROM チップは、特別なプログラミング用の装置を使わなければ書き換えはできません。

ブレード

プロセッサ、メモリ、ハードドライブを組み込んだモジュール。このモジュールは、電源装置とファンを搭載したシャーシに取り付けられます。

プロセッサ

演算機能と論理機能の解釈と実行を制御する、コンピュータ内部の主要な演算チップ。通常、特定のプロセッサ用に書かれたソフトウェアを別のプロセッサ上で実行するには、ソフトウェアの改訂が必要です。「CPU」はプロセッサの同義語です。

ヘッドレスシステム

キーボード、マウス、モニタを接続しなくても機能するコンピュータまたはデバイス。通常、ヘッドレスシステムはインターネットブラウザを使ってネットワーク経由で管理します。

ホストアダプタ

ホストアダプタは、コンピュータのバスと周辺装置用のコントローラとの間の通信を実現します (ハードドライブコントローラサブシステムには、集積ホストアダプタ回路が内蔵されています)。SCSI 拡張バスをシステムに追加するには、適切なホストアダプタの取り付けまたは接続が必要です。

ミラーリング

データ冗長性的一种。一組の複数の物理ドライブを使用してデータを格納し、さらに一組または複数組の追加のドライブに同じデータのコピーを格納します。ミラーリング機能はソフトウェアによって実現されます。「ガーディング」、「内蔵ミラーリング」、「ストライピング」、「RAID」も参照してください。

メモリアドレス

コンピュータの RAM 内部にある特定の位置。通常、メモリアドレスは 16 進数で表します。

メモリモジュール

DRAM チップを組み込んだ小型回路基板で、システム基板に接続します。

メモリ

基本的なシステムデータを記憶するハードドライブ以外の装置。コンピュータには、複数の異なったタイプのメモリを搭載できます。たとえば、内蔵メモリ (ROM と RAM)、増設メモリモジュール (DIMM) などです。

ユーティリティ

メモリ、ディスクドライブ、プリンタなどのシステム資源を管理するためのプログラム。

ローカルバス

ローカルバス拡張機能を持つコンピュータでは、特定の周辺デバイス (ビデオアダプタ回路など) を従来の拡張バスを使用する場合よりかなり高速に動作する

ように設定できます。「バス」も参照してください。

拡張カードコネクタ

拡張カードを差し込むシステム基板またはライザボード上のコネクタ。

拡張カード

ネットワークアダプタや SCSI アダプタなどの、システム基板上の拡張カードコネクタに差し込むアドインカード。拡張カードは、拡張バスと周辺機器間のインタフェースとして、システムに特別な機能を追加します。

拡張バス

コンピュータには、プロセッサがネットワークアダプタなどの周辺機器のコントローラと通信できるようにするための拡張バスがあります。

管理タグ

通常はシステム管理者によって、セキュリティやトラッキングのためにコンピュータごとに割り当てられるコード。

起動ルーチン

システム起動時に、すべてのメモリのクリア、デバイスの初期化、およびオペレーティングシステムのロードを行うプログラム。オペレーティングシステムが正常に応答する場合は、<Ctrl><Alt> を押して再起動できます。これを「ウォームブート」といいます。ウォームブートできない場合は、リセットボタンを押すか、システムの電源をいったん切ってから入れ直して再起動します。

周囲温度

コンピュータが設置されている場所や部屋の温度。

周辺機器

コンピュータに接続される内蔵装置または外付け装置（ディスクドライブ、キーボードなど）。

診断プログラム

コンピュータの診断に必要なさまざまなプログラムをセットにしたソフトウェア。

読み取り専用ファイル

読み取り専用ファイルとは、編集や削除が禁止されているファイルのことをいいます。

内蔵プロセッサキャッシュ

プロセッサに内蔵された命令キャッシュとデータキャッシュ。「キャッシュ」も参照してください。

内蔵ミラーリング

内蔵ミラーリングによって 2 台のドライブを同時に物理的にミラーリングすることができます。内蔵ミラーリング機能はコンピュータのハードウェアによって実現されます。「ミラーリング」も参照してください。

[メモ、注意および警告](#)

[メモ、注意および警告](#)

Dell™ PowerEdge™ 750 システム ユーザーズガイド

- [メモ、注意および警告](#)
 - [用語集](#)
-

メモ、注意および警告

- 📌 **メモ:** メモは、コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
 - 👉 **注意:** 注意は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性あることを示し、その危険を回避するための方法を説明しています。
 - ⚠️ **警告:** 警告は、物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示します。
-

用語集

略語の一覧が、「用語集」に収録されています。

ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。
©2003 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標について: Dell、DELLのロゴ、PowerEdge および Dell OpenManage は Dell Inc. の商標です。Intel Pentium および Celeron は Intel Corporation の登録商標です。MS-DOS、Microsoft および Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。Novell および NetWare は Novell, Inc. の登録商標です。Red Hat は Red Hat, Inc. の登録商標です。UNIX は The Open Group の登録商標です。

本書では、必要に応じて上記記載以外の商標および会社名が使用されている場合がありますが、これらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に所属するものではありません。

[メモ、注意および警告](#)